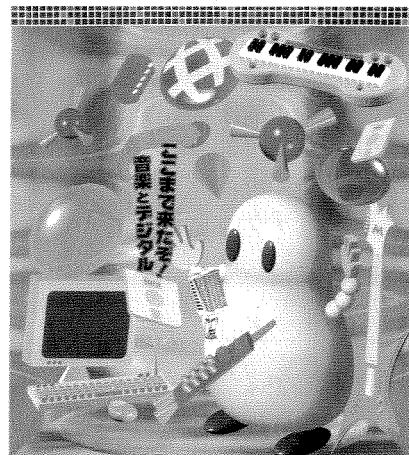


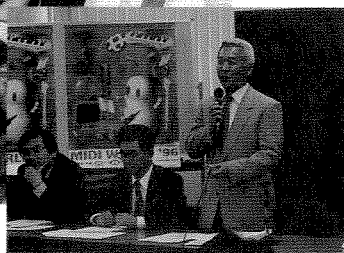
＜開催日 平成8年10月25日(金)、26日(土)、27日(日)＞

全体会議を開催



写真上：説明に聞き入る全体会議の様子

右：右より業務委員会 梅陰正委員長、倉谷卓幸副委員長、
飯村康弘副委員長

[illegible]

MIDI WORLD '96ポスター

社団法人音楽電子事業協会事務局3F会議室に於て、
AMEI 業務委員会及び日本経済新聞社による、
「MIDI WORLD '96」出展企業37社に対する最終説明会を開催。
出展・運営に関する質疑応答を始め、
ポスター及びロゴマークの発表、会場の小間割抽選会等が行われ、
初のAMEI主催イベントとして本格始動ははじめました。

CONTENTS

「MIDI WORLD '96」 概要.....	2
社団法人音楽電子事業協会 組織.....	4
専門委員会活動報告	
運営委員からの総括報告.....	5
電子音楽標準化委員会.....	5
著作権委員会.....	6

MIDI規格委員会.....	8
ハードウェア委員会.....	9
ソフトウェア委員会.....	10
マルチメディア人材育成研究委員会.....	11
デジタル・レコーディング委員会.....	11
AMEI会員名簿.....	12

MIDI WORLD '96

MIDI WORLD '96 ～ここまで来たぞ！ 音楽とデジタル～

- 会 期：平成8年10月25日（金）＜関係招待日＞
 16:00～16:15 オープニングセレモニー
 16:15～20:00 内覧会
 平成8年10月26日（土）＜一般公開日＞
 10:00～18:00
 平成8年10月27日（日）＜一般公開日＞
 10:00～17:00

■会 場：池袋サンシャインシティ
 コンベンションTOKYO 展示Dホール

■主 催：社団法人音楽電子事業協会
 日本経済新聞社

■後 援：通商産業省／文化庁（順不同、予定）

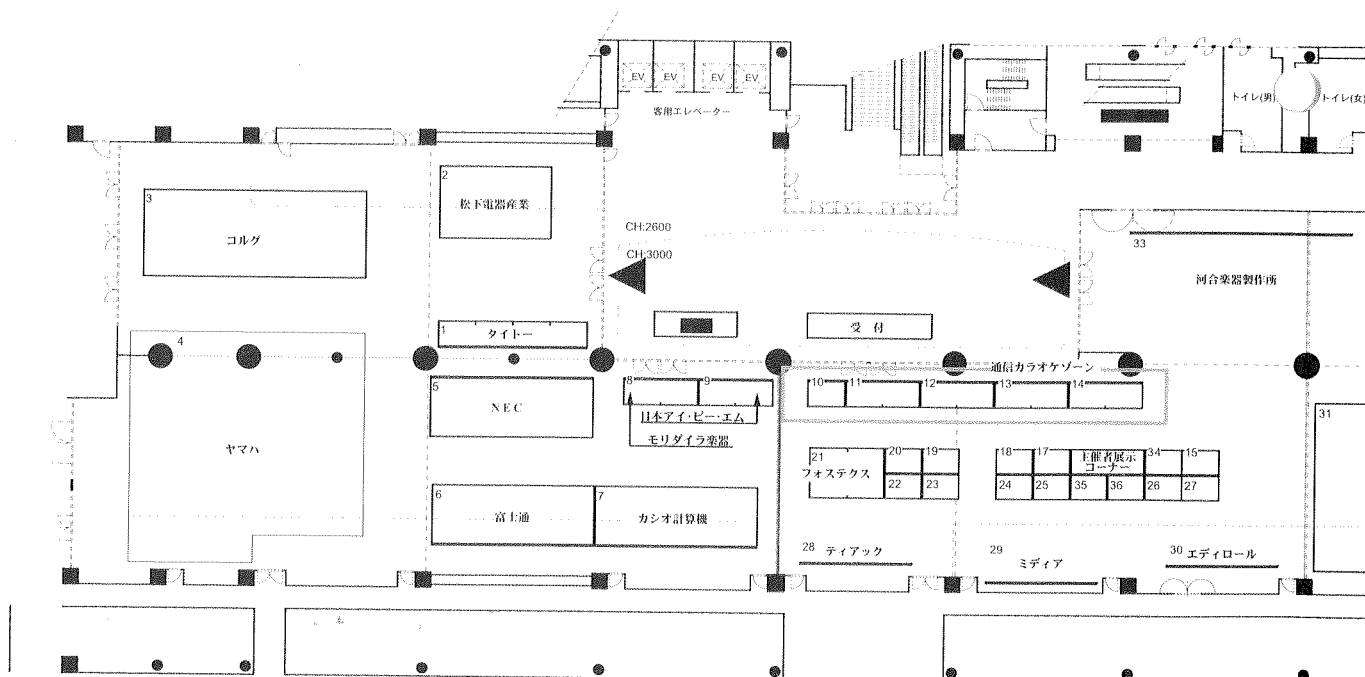
■協 力：財団法人マルチメディアソフト振興協会／
 日経BP社／日経ホーム出版社／テレビ東京
 （順不同、予定）

■予定来場者：20,000人（予定）

■入場料：1,000円（前売り800円、共に税込み）
 チケットぴあ、チケットセゾンにて前売り

■協 賛：財団法人学習ソフトウェア情報研究センター／
 財団法人コンピュータ教育開発センター／
 社団法人情報サービス産業協会／情報処理振
 興事業協会／財団法人データベース振興セン
 ター／社団法人日本アミューズメントマシン
 工業協会／社団法人日本印刷産業連合会／社
 団法人日本音楽スタジオ協会／日本楽器フェ
 ア協会／日本教育ソフト協議会／社団法人コ
 ンピュータ・グラフィックス協会／財団法人
 日本情報処理開発協会／日本シンセサイザー・
 プログラマー協会／日本電子出版協会／社
 団法人日本パーソナルコンピュータソフトウェ
 ア協会／社団法人日本ビデオ協会／社団法人
 日本ポストプロダクション協会／社団法人日
 本レコード協会／財団法人ニューメディア開
 発協会／社団法人マルチメディア・タイトル
 制作者連盟（順不同、予定）

会場レイアウト及び出展企業



イベントステージ&セミナー開催予定

★イベントステージ＜サンシャイン劇場＞

10月26日（土）

【ステージ1】 12:00~13:00 有限会社インターネット
「Singer Song Writer - デジタル・セッション」
出演：篠田元一

【ステージ2】 14:30~15:30 ローランド株式会社
「第9回デスクトップ・ミュージック『力作』コンテスト」
審査員：浅野孝己（ゴダイゴ）・
竹下欣伸（元クライズラー・カンパニー）

【ステージ3】 17:00~18:00 ヤマハ株式会社
「3rd XGデータコンテスト・ファイナル」
出演：向谷 実・松武秀樹

10月27日（日）

【ステージ4】 12:00~13:00 ヤマハ株式会社
「DA Workstation SPECIAL」 出演：浅倉大介
※入場者に限りがありますので、事前に(10月10日締切)往復ハガキ
にてお申し込み下さい。抽選により当選者にご通知申し上げます。
〒108 東京都港区高輪2-17-11 ヤマハ(株)東京支店第二営業部
「DA Workstation SPECIAL」係

【ステージ5】 14:30~15:30 株式会社河合楽器製作所
「クールジャイブ スペシャルヒップホップライブ」
出演：クールジャイブ

【ステージ6】 17:00~18:00 富士通株式会社
「『エーペルージュ伝説』発売記念コンサート」
出演：渡辺まほろ（タレント） ほか

※ステージは入場無料です。但し整理券が必要です。整理券は展示会
場入場券をお買い求めの上、各出展社ブースにてお受け取り下さい。

★セミナー＜文化会館5F 501/502＞

10月25日（金） 13:00~15:45

【Program1】 「デジタルエンターテインメントの将来」
パネリスト デジタルメディア・インタラクティブ株式会社
取締役 企画開発担当 中井秀範氏
株式会社ホリプロ 取締役 メディア事業本部
制作四部 部長 堀 義貴氏
株式会社ワタナベデジタルメディア
コミュニケーションズ
取締役プロデューサー 姉崎 祐氏
司 会 株式会社日経BP社
日経エンタテインメント！編集長 品田英雄氏

【Program2】 「次世代ミュージックショップの展開
～インターネット・MIDI・流通～」
講 師 株式会社シンタックス
代表取締役社長 小松義光氏
パネリスト 未定

10月26日（土） 13:00~15:00

【Program3】 「マルチメディアと音楽の微妙な関係（仮題）」
パネリスト 株式会社ワープ 代表取締役 飯野賢治氏
日本エム・アイ・シー株式会社 小川高松氏
音響システムプロジェクト
ディレクター
ミュージシャン 松浦雅也氏
タレント 椎名亜希子氏

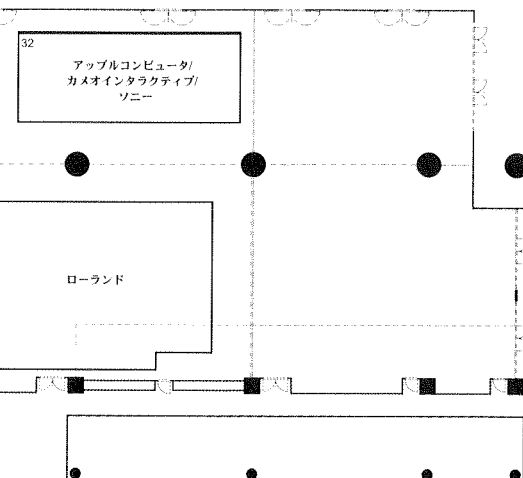
10月27日（日） 13:00~15:00

【Program4】 「音楽プロデューサーの時代（仮題）」
パネリスト 未定

1	株式会社タイトー
2	松下電器産業株式会社
3	株式会社コルグ
4	ヤマハ株式会社
5	日本電気株式会社
6	富士通株式会社
7	カシオ計算機株式会社
8	株式会社モリダイラ楽器
9	日本アイ・ビー・エム株式会社

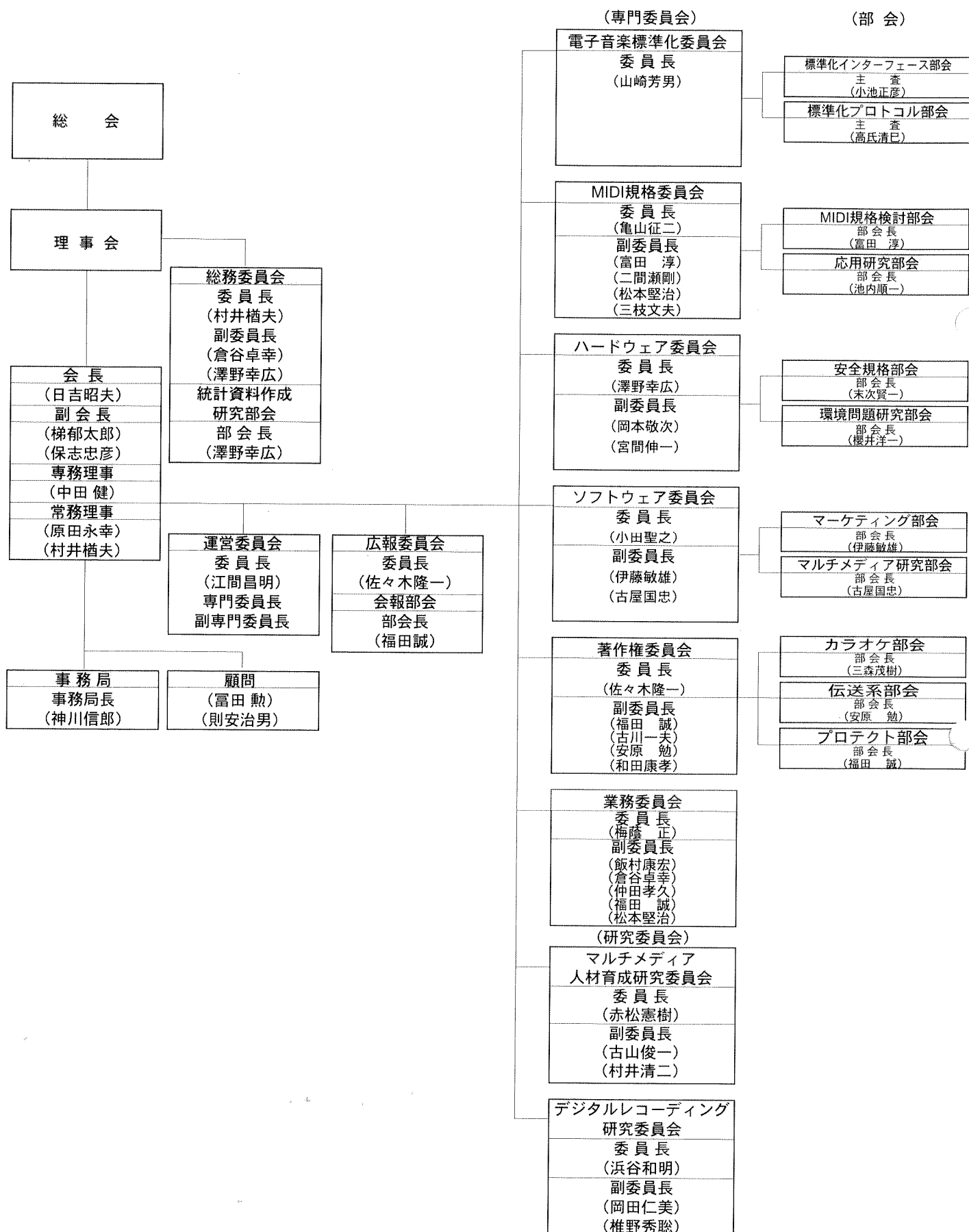
10	日本ビクター株式会社
11	パイオニア株式会社
12	株式会社エクシング
13	株式会社第一興商
14	株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス
15	有限会社ミュレイディア
17	有限会社インターネット
18	島村楽器株式会社
19	TDK 株式会社
20	株式会社鈴木楽器製作所
21	フォステクス株式会社
22	株式会社リットーミュージック
23	株式会社アイデックス
24	日本シンセサイザー・プログラマー協会
25	株式会社リムショット
26	株式会社シーミュージック
27	日本データパシフィック
28	ティアック株式会社
29	株式会社メディア
30	エディロール株式会社
31	ローランド株式会社
32	アップルコンピュータ株式会社 株式会社カメオインタラクティブ ソニー株式会社
33	株式会社河合楽器製作所
34	有限会社キュービックエナジー
35	ソフトバンク株式会社
36	株式会社ミュージック・シーオー・ジェービー

団体休憩所



社団法人音楽電子事業協会 組織図

平成8年度7月末日現在



AMEI 委員会報告

運営委員長からの報告

運営委員長のご挨拶とお願い

御案内の通り、平成8年4月より当協会は通商産業省所轄の社団法人となりました。

公益法人として、社会的責任と社会的貢献を義務付けられる一方、今後はその活動に社会的信用と権威が賦与される事になり、又経済的恩典も与えられます。

設立時に掲げました設立趣意書、事業計画はその具体的活動指針であり、具体的目標であります。中でも、会長が設立総会でも述べられました4本の柱

- (1)「MIDI規格の公的標準化」
- (2)「音楽電子事業(MIDI・音楽ソフト)の普及・啓蒙活動」
- (3)「音楽電子事業の知的財産権のあり方の研究」
- (4)「音楽電子事業に関する安全規格・PL法・地球環境保護関連法への技術的対応等に対する研究・実践」等

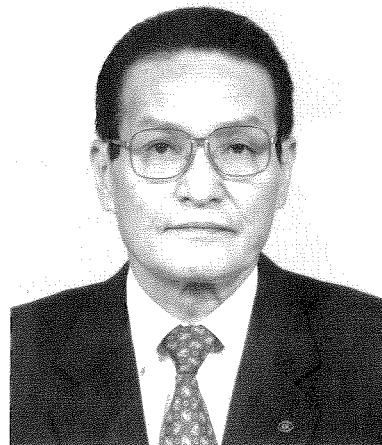
が当面の最重要課題と考えて居ります。平成8年4月より9月までの前半期間は、そのための組織作りと具体的進め方の検討に費やされました。

後半よりは、その具体的問題点の明確化・研究の成果出し・活動実践の時期であります。

お蔭様で強力な委員会・部会組織、正副委員長・部会長に支えられ、社団化1

年目の活動ではありますが、必ずや会員各位の事業活性化・事業機会創出に貢献出来る成果を上げられる事と確信いたして居ります。何卒一層の御支援と御協力を重ねてお願い申し上げます。

(9月10日、平成8年度第一回運営委員会を開催。前半活動の結果報告と後半活動の計画を、下記委員会報告の様に検討・協議致しました。)



運営委員会 江間昌明委員長

電子音楽標準化委員会

1. 活動報告

●委員会/部会 開催日 96年6月13日 96年7月9日

●活動・実践報告

社団法人音楽電子事業協会の本年度事業にMIDIの標準規格化、いわゆるJIS化が第一の事業として挙げられていました。4月より工業技術院の協力を得て、実施計画書および予算書の作成を開始し、6月より「電子音楽分野のMIDI規格の調査研究」をスタートいたしました。

委員会は、生産者、使用・消費者、中立者を含んだ委員構成とし、中立者に外部より山崎(早稲田大学教授)、兼谷(工業技術院)、河野(通産省)の3氏を迎え、MIDI規格委員会より10名、事務局1名の計14名のかたに御参加いただきました。山崎先生を委員長に「標準化方針の調査検討」をテーマにMIDI規格のどの範囲までをJIS化するか、また従来のRPといわれる推奨案の取り扱い、従来MIDI規格を作成するにあたり協議してきた米国のMMAとの関係をどの様にして進めるのか、等が2回の会議に於て検討されました。

●決定事項

・MIDI規格書(Document Version4.2)の部分をJIS化に馴染む(文言等)形とするということで、大半のコンセンサスはとれました。

・スタンダード部分を規格化すると同時に、流動的な部分(RP部分)ということをつけ加えた形でJIS化できないかどうかを検討します。

・対外組織(MMA)にはJIS化に関する方向性、作業内容について連絡を密に取っていきます。

2. 活動計画(7月下旬時点)

●計 画

・作業部会(標準化プロトコル部会/標準化インターフェイス部会)の設置

・今後の委員会・部会日程について

電子音楽標準化方針委員会…9月、11月、3月

標準化プロトコル部会…8月、9月、10月、11月、12月、2月

標準化インターフェイス部会…8月、9月、10月、11月、12月、2月

・実施日程について

①標準化方針の検討調査(電子音楽分野における現状の調査を踏まえて、標準化の方針を検討する)～10月

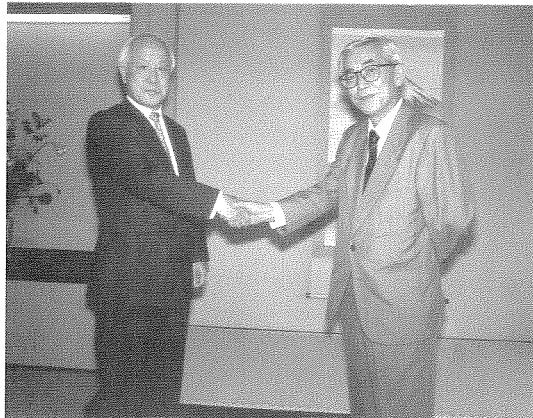
②JIS原案の作成調査(日本国内におけるMIDI規格を元にして、関連する公的規格、民間規格との整合を含め、国際提案を視野に入れJIS化原案を検討する)

7月～3月

③共通技術基盤の検討調査(電子音楽分野における今後の技術進歩・技術革新に向けて、関係者の共通認識となる技術基盤の確立を検討する)

2月～3月

著作権委員会



写真左より (社)音楽電子事業協会 日吉昭夫会長、
(社)日本音楽著作権協会 加戸守行理事長

AMEIとJASRACのトップ会談開催される。

業務用通信カラオケに関するJASRACとの暫定合意をうけて日吉会長、梯副会長、保志副会長とJASRACの加戸理事長、木村常務理事、加藤常務理事とのトップ会談が7月17日にホテルニューオータニにおいて開催されました。

今回のトップ会談はいろいろな意味でこのタイミングで開催されたことに意義があると評価されます。暫定合意の内容は報道資料(カラオケ部会に掲載)でAMEIの立場を広くマスコミを通じて、一般のかたがたに知っていただけたと思いますが、AMEI側も社団法人として今まで以上に社会的な責任を果たさなければなりませんし、またJASRAC側も加戸理事長を中心とする新しい執行部がスタートしたところです。著作権委員会としてはこのタイミングを逃さず、AMEIとJASRACとの新しい交渉の窓口を見出し、かつ社会的に責任のある両団体の首脳がお互いを友好的に認め合う環境が整うことで、AMEIが主体的に取り組んでいるマルチメディアに関わる音楽著作権の使用料交渉が、円滑に推進できるものと確信しております。

カラオケ部会

業務用通信カラオケ合意締結について



写真左より (社)音楽電子事業協会 保志忠彦副会長、梯郁太郎副会長、
日吉昭夫会長、(社)日本音楽著作権協会 加戸守行理事長、
木村豊常務理事、加藤英夫常務理事

AMEI(社団法人 音楽電子事業協会)とJASRAC(社団法人 日本音楽著作権協会)との間で協議中であった業務用通信カラオケの音楽著作権使用料について、平成7年9月末日までの過去分の使用料の算定基準及びそれに基づく清算に関して、平成8年6月30日付けにて基本的に合意いたしました。

今回の合意内容はあくまでも暫定的な処置で、AMEIとJASRACとの間には、本格的なマルチメディア時代における通信型メディアの著作権処理のあり方に関して双方の認識に大きな隔たりがあり、そのために、任意の協議に基づく使用料のあり方についての合意も不達成の止むなきに至っております。しかるに、これ以上過去分の清算が遅れることで、AMEIの意に反して、不本意にも作詞家、作曲家等の権利者の皆様に多大の迷惑をかけることになる事を憂慮し、また、このような清算未了と言う事態をもたらすAMEI加盟各社の事業運営の不安定な状況を解消するために、今般の合意に応じたものであります。この合意により、今後本格的なマルチメディア・ソフト産業の先駆者としてきわめて重要な役割をになうと考えられる「通信カラオケ」に関わる音楽著作権協議を円滑に推進することが可能となることを期待しております。

合意内容の要旨

清算内容

- (1) 平成6年3月末日までの分
管理著作物1曲あたり5分まで5円50銭×平成6年3月末日時点の開局済実稼働端末機械台数×平成6年3月末日時点のデータベースに複製された総管理著作物数×1.03
- (2) 平成7年9月末日までの分
管理著作物1曲あたり5分まで6円50銭×平成7年9月末日時点の開局済実稼働端末機械台数×平成7年9月末日時点のデータベースに複製された総管理著作物数×1.03
- (3) 平成7年10月1日以降の管理著作物利用(含む家庭用通信カラオケ)
JASRAC案及びAMEI案をもとにあらたに協議のうえ平成8年9月末日までに定めることとする。
- (4) 受信先店舗の演奏権の適法利用の徹底について
適法利用を周知、徹底のための協議を行う。

AMEIの今後の協議方針について (対JASRAC)

- (1) 通信型マルチメディアである「通信カラオケ」の著作権使用料算定基準については、音楽情報収入に適正な一定の料率を掛けた定率制を導入することが合理的と考えております。
- (2) 通信型マルチメディアでは国際的なハーモナイゼーションを重視しなければならないと考えております。日本だけの独自の料率は不合理であると考えております。
- (3) 著作権使用料は権利者と事業者がともに協力し、市場の拡大とユーザーの利便を考慮して合理的に決定すべきで、両者は本来共存共栄の関係にあります。権利者団体はマルチメディア・ソフト産業の発展を優先させるよう柔軟に対応して頂きたいとかがえております。
- (4) 著作権使用料規定の制定には事業者団体との協議を重視し、仲介業務法に定める正式な手続きに基づき慎重に決めるルールを尊重していただきたいと考えております。

伝送系部会

1. 活動報告

●活動・実践報告

JASRACに対して、昭和63年に日本テレビ放送網株式会社より、キャプテンサービスにおける音楽著作物の使用許諾に関して申し入れをして以来、伝送系メディアにおける音楽著作物使用許諾の取り扱いについて断続的に話し合いをもってまいりました。そして、昨年度5月、JASRACに対してAMEIとして「上申書」と「伝送系・音楽データ著作権暫定使用料金案」を提出し協議を開始致しました。その内容としてはデータベースの蓄積及び送信の両方をカバーする包括許諾を双方の協議により使用料を決めていこうとするものでした。AMEI案としてはデータベース蓄積は認めず、使用料として再生のみの場合（有料送信処理）は顧客に提供する価格の2%、複製される場合（端末での複製処理）は6%とし、基礎控除20%と致しました。それ以降、6月にこの案を基に当部会はAMEIとして各社営業開始に際し、JASRACへの対応についての指針を提示するとともに、昨年7月、12月にJASRACと協議をいたしましたが無駄解決にいたっておりません。

●決定事項

- ・カラオケ部会がJASRACと暫定合意ができた現在、今後はカラオケ部会と協同歩調を計りJASRACへの統一交渉団を構成し、対応を計っていく。

2. 活動計画

●計 画

1. 伝送部会は、当初パソコンを端末としてネットワーク上で

の音楽データの流通問題に取り組んでまいりました。しかしながら、昨年度から家庭用通信カラオケ機の登場及び、音楽データのゲーム機による配信、さらにインターネットの普及により国内外からの配信等、家庭マーケットに対して様々な機器、形態で音楽データ配信サービスが展開されているのが現状です。そして、このような状況のなかで、種々のハードウェアが開発され、インフラが整備され、多数の企業体が市場に参入してくるだろうと予想されます。こういった環境のなかで、今後は、業務用、家庭用の枠を超え、ネットワーク上での音楽データの通信の問題として対処してまいります。また、JASRACに対しては、カラオケ部会と協同歩調をとり諸問題の解決にあたります。

3. 今後の部会活動に対する抱負

- ネットワーク時代に向けた、正当なる著作権使用料をJASRACとの協議の中で策定していきたい。また、これからは、いろいろな企業がインターネット上で様々な端末機器を利用して、国内、海外から音楽データ配信サービスを展開していくと考えられます。これら企業のAMEI加入を促進し、この分野の事業活性化に協力して行きたい。

4. 懸案事項・課題

ネット上での流通の懸案事項として、プロテクトをどうするかという課題があります。他部門との連携を取りながら解決を計っていききたいと思います。

プロテクト部会

1. 活動報告

○部会開催日 96年7月10日

●活動・実践報告

今年度上期は、4月17日に第一回WGが開催され、MIDIデータのプロテクトに関する技術的な検討を開始。リーダーとして第一興商の太田氏を、副リーダーとしてヤマハ・戸叶氏とエディロール・植田氏を選出。5月8日第二回WGを開催、リーダーの太田氏より、米国で開発された公開暗号鍵システムPGP(Pretty Good Privacy)に関する研究発表を実施し、最先端のデータプロテクト方式についての動向を確認。第三回WGは6月12日に開催され閉鎖系環境と開放系環境の各々に分けて、データプロテクトのありかたについての検討を開始。7月3日に開催された第四回WGで前回に引き続いてデータプロテクトの技術検討がなされた後、凸版印刷の那須川氏より「隣接著作権の最新動向」と題した発表がなされ、音楽データ制作者と原盤権の関係について考察致しました。また、7月10日に第一回部会が開かれ、下記の通り、部会とWGの業務分担についての審議がなされました。

★部会の業務

- 1) SMFデータに添付されるべき著作権および隣接権に関する表示項目の確定
→ 作詞・作曲者名、データ制作者名、JASRACコード、警告文、等
- 2) 前記の内容を確定するための、関連する団体・業界との折衝
→ MMA、レコード業界、アプリケーションソフト（シーケンサーソフト等）制作者団体、等
- 3) データプロテクトについての普及・啓蒙活動
 1. ソフトハウスあるいはデータ制作者に対して、不法コピーに対する警告文を積極的に表示する旨、協力を申し入れる。
 2. 雑誌・専門誌等で、不法コピー防止の呼びかけを実施する。

★WGの業務

- 1) SMFデータに添付するプロテクト関連データの規格を決定
 1. 閉鎖系・開放系それぞれの技術上の問題点の発見と解決策の検討
 2. 電子指紋（すかし）の技術的可能性の検討 → 1997年3月までに答申
- 2) 必要に応じて関連団体との技術情報の交換
- 3) SMFデータをユーザーが加工する際に電子指紋データが破壊されないための技術的可能性を、アプリケーション制作会社等と検討

●決定事項

上記、7月10日の部会審議内容に準じるものとします。

2. 活動計画

●計 画

1. 今後のWG活動は、主に電子メール上で行うことと致します。
2. 部会及びWGの今後の活動計画は、上記7月10日の部会審議内容に準じるものとします。

3. 今後の部会活動に対する抱負

- マルチメディアにおける音楽著作物の権利者と使用者の信頼関係が更に強化され、権利者は正当な使用料の分配を受け、一般ユーザーはMIDIデータを安心して使用できるという環境に、早く整備したいと思います。

4. 懸案事項・課題

- 本格的な実施の段階では、業界全体で使用できる共通規格が必要であり、全世界のアプリケーションソフト制作会社を巻き込んだ実施を目指すことになります。

MIDI規格委員会

1. 活動報告

○部会開催日 96年6月4日

●活動・実践報告

MIDI規格委員会はさる6月4日に幹事会及び全体会議を開催し、また、MIDI規格検討部会を5回、応用研究部会を2回開催致しました。委員会としては、MIDIに関する規格化、及びMMAとのコミュニケーションを中心に活動を進めてきました。MIDI規格検討部会においては、GMレベル2と歌詞付きSMFの2つのWGのいずれも早期の規格化を、また、応用研究部会においても、次世代MIDIの具体的なテーマとしてIEEE1394を取り上げ来年春の規格化を目指し進めております。これらについて、特に、GMレベル2と歌詞付きSMFについては、出来るだけ早期にまとめ、MMAへの提案・準備をし、次にWinter NAMMのMMAの総会においては、その審議決定

ができるよう進めてまいります。

また、電子音楽標準化方針委員会（JIS化）においてMIDI規格の調査研究に参加・協力してまいります。

2. 活動計画（8月中旬時点）

●今年度Winter NAMMには、MMAの総会が開催されますので、総会に参加し、上述の規格化、RP・CAに関する検討、JIS化、その他情報交換等を含めコミュニケーション及び相互の協力関係を強化したいと考えております。

3. 今後の委員会活動に対する抱負

今期は、MIDI規格委員会として、重要な規格化に向けてのテーマを抱えており関係委員会、部会、WG、さらにMMAと協力し実のあるものとしていきたいと考えております。

MIDI規格検討部会

1. 活動報告

●活動・実践報告

MIDI規格検討部会ではMIDI規格に関連する仕様の検討業務を担当しています。MIDI規格自体は、AMEIと米国MMAと共同で管理運営にあたっていますので、AMEIとMMAの相互の承認によって規格に反映される事になります。この業務の中にはGeneral MIDIの様なRP(Recommended Practice)の検討も含まれています。RPには規格のような拘束力はありませんが、MIDIを使用するにあたって推奨される応用例とでも言うべきものです。近年は、GMやSMF等をはじめ、仕様が業界で統一されていることの価値が急激に高まっています。

当部会ではワーキンググループとして、GMシステムレベル2と、歌詞付きSMFの2つのワーキンググループが活動しています。どちらも会議と電子メールによる討議を併用しての活動となっています。GMシステムレベル2ワーキンググループでは、業界標準としてのレベルの高い音源フォーマットを目指し仕様の検討を行っています。パラメータなどの洗い出し作業を行い問題点を検討してきましたが、提案できる物から先にRPやCAとして提案していくということで、まとめの作業を行っております。仕様全体をまとめるには検討すべき範囲が多岐に渡るため、効率を考慮した方法になっています。今回の提案は9月中旬にまとまる予定ですが、これら

はGMレベル2だけでなく決まればすぐに利用できるものです。歌詞付きSMFワーキンググループでは、最終的にはカラオケなどのアプリケーションとして使用できるレベルの仕様を目指しての提案作りを行っています。

活動は二段階に分かれ、3月には第一段として、現行のSMFで英語圏以外の歌詞を使用できるようにするための言語拡張手段を盛り込んだ提案書を提出しました。現在それに対する回答が寄せられており、提案内容を調整すべく検討を行っています。第二段としては、ルビなどの特殊な形態の文字の表記方法や歌詞の表示方法なども含んだ、全体的な歌詞の取り扱いについて提案を行いたいと考えています。

2. 活動計画

●前述のように今年度の後半は、GMレベル2に向けてのRP等の提案と、歌詞全体の取り扱いも含んだSMFの提案が、活動のメインになります。

3. 今後の部会活動に対する抱負

●上記2つのワーキンググループからの活動からも明らかですが、以前は電子楽器のみの世界でやってこられたMIDIも近年はPCマーケットとの距離が急激に密になってきております。PCマーケットのなかでのMIDI規格を考えていくことの重要性が高まってきています。

応用研究部会

1. 活動報告

●活動・実践報告

次世代のMIDI規格の一つ及び当面取り組む課題として、次世代マルチメディア環境として必要とされ新しい利用可能性のあるデジタル機器及びデジタル楽器等の相互接続を取り上げる事と致しました。

相互接続の方式として、インテルが提唱しているUSB、アップルが提唱しているIEEE1394が候補に上げられましたが、その将来性、実用性、またヤマハの提案等を含めIEEE1394を採用する事となりました。

具体的には、ヤマハの提案したIEEE1394を利用したmLANをもとにMIDIの部分について、AMEIの応用研究部会で検討していく事としました。

7月には、アップルの協力を得て、MMAでIEEE1394に関し中心となって活動しているジョナサン・ザー氏を招いてセミナーを開催し、IEEE1394に関する技術知識の習得、及びMMAとの技術交流を致しました。

●決定事項

・次世代MIDIの相互接続方式としてIEEE1394の採用を決定致しました。（上記参照）

2. 活動計画

●計画

1. 応用研究部会としては、IEEE1394のMIDIに関する技術検討を進め、MMAとも協力し97年春には、規格化を図って行きたいと考えております。そのためには、出来るだけ早い時期にWGを作り具体的な活動を進めたいと考えております。

3. 今後の部会活動に対する抱負

●次世代の接続ケーブルとして期待が懸けられているIEEE1394にまずMIDIを入れることを目標にし、さらにMIDIの活用の拡大、新利用を目指したいと考えております。

4. 懸案事項・課題

●MIDIの規格化と同様、今後、規格化にあたり、その作業が多岐であり、これを解決するためには、各社の今一層の協力が必要であります。

また、規格化を進めるにあたって、著作権も合わせて検討を進める必要が有ります。

ハードウェア委員会

1. 活動報告

○委員会開催日（幹事会・全体会議） 96年6月12日

●活動・実践報告

さる5月10日適正処理協力センターにて開催されました財団法人家電製品協会PLセンター会費分担検討会議に出席致しました。また、5月27日東京商工会議所7F国際会議場にて開催された社団法人日本電気協会第43回電気用品調査委員会に出席。平成7年度事業報告及び収支決算、平成8年度事業計画収支予算案審議に参加致しました。

当委員会の活動としましては、千代田区麹町食糧会館に於て6月12日当委員会幹事会を開催。

同日開催予定の全体会議に備えて、平成7年度事業報告（案）、平成8年度事業計画案及び平成8年度人事体制（案）について検討、また同じく食糧会館にて当委員会全体会議を開催。10社15名に事務局をくわえた17名が出席致しました。委員長挨拶に続き、社団法人化への経緯説明、AMEI全体の平成7年度事業報告、ハードウェア委員会の平成7年度事業報告、同平成8年度事業計画が審議、承認されました。

●決定事項

- ・平成8年度委員長選考が行われ、澤野委員長が再選されました。また、その他の副委員長、部長も再選されました。
- ・6月末、かねてより当委員会 環境問題研究部会で編集を進めてまいりました「電子楽器製品アセスメント マニュアル」が完成し、委員会参加企業に配布されました。

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

1. 後期も前期に引き続き、製品安全、電波雑音、並びに環境問題等、ハードウェアをとりまく諸問題に関し、安全規格部会及び環境問題研究部会の活動を軸に対処してまいります。

尚、当委員会として決定済み行事日程は次のとおりです。

2. 8月21日（水）環境問題セミナー

場所：アクトシティ浜松 コンgressセンター 54会議室

時間：13：00～15：00

講師：松下電器産業(株) 蛇拔 信雄氏

3. 平成9年3月 委員会幹事会、全体会議 開催予定

安全規格部会

1. 活動報告

●活動・実践報告

安全規格部会は、主に電子楽器に関する全世界の安全規格や電波障害規則を把握し、全会員にその情報を解り易く提供することによって、会員各社の製品が「安全かつ適正な製品」となるように活動を行っています。また、昨年よりスタートいたしました国内PL法についても様々な対応を行っています。

安全の確保とは、非常に地道な活動と言えますが、一方では非常に重要な事業展開の要素とも言えます。また、近年自己責任の増大が大きなトレンドとなっておりますので、安全規格部会も時代の流れを先取りしたタイムリーな活動を目指していきます。

●決定事項

- ・会員への徹底を目的に
 - …ヨーロッパEMC規格対応ガイド作成
 - …安全確保の為の表示に関するガイド作成
 - …ヨーロッパLVD安全規格対応ガイド作成
 - …電源高調波抑制実行計画策定
- ・スキルアップのために…PL勉強会実施
- ・安全推進活動として…電取自主依頼試験の実施(本年度4件)

2. 活動計画

●計画／トレンド

1. 最近の安全規格の世界は、

- ①国家規格から国際規格へ
- ②国家認証から自己認証へ
- ③自己責任の増大へ

と動いています。「守ってもらう」から「自らを守る」という発想が大切となるでしょう。自らを守るために会員各社が何をすべきかを判断し実行することが必要となるでしょう。私たち安全規格部会はその判断の為の資料や情報を今後も提供してまいります。

★家製協PLセンターへの入会

ユーザーや販売業者の為にPL問題が発生した時の相談窓口がありませんでした。そこでAMEIとして4月より上記センターに入会しましたので疑問の点がありましたらお気軽に御相談下さい。TEL03-3503-3880

環境問題研究部会

1. 活動報告

○部会開催日 96年4月10日 96年6月12日

●活動・実践報告

平成8年度上期は、

- ①電子楽器 製品アセスメントマニュアルの内容を検討、作成（製品アセスメントを実施する為のチェックリスト作成の指針）
- ②オーストラリア及び米国からの木材防虫処理要求に関する勉強会
- ③ドイツの化学品禁止政令のフォルムアルデヒド規制の勉強会を開催致しました。

●決定事項

- ・電子楽器製品アセスメントマニュアルの作成完了、会員への配布
- ・財団法人クリーン・ジャパン・センターへの入会（理事会承認済み）

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

1. 委員会／部会

- ・8/21第7回環境問題研究部会開催予定（浜松）
講演会同時開催「世界の環境規制について」
講師：蛇拔 信雄氏 松下電器産業(株)
- ・10/9第8回環境問題研究部会開催予定（東京）
講演会同時開催予定（内容未定）

- ・12/11第9回環境問題研究部会開催予定（浜松）

講演会同時開催予定（内容未定）

- ・2/12第10回環境問題研究部会開催予定（東京）

講演会同時開催予定（内容未定）

（講演会内容未定については以下のように計画されています。）

1. JACO(日本環境認証機構) またはJQA(財団法人日本品質保証機構) による勉強会
2. 財団法人クリーン・ジャパン・センターによる勉強会
3. 発砲スチロール再資源化協会による勉強会

3. 今後の部会活動に対する抱負

●各国の環境に対する規制は年々厳しくなり、その規制をクリアしないと製品の出荷が出来なくなる恐れもあるという事態になりつつあります。とくに欧州に於てはドイツを筆頭に地球環境保護を旗印に様々な化学物質の規制・包装材料の回収などの規制を出してきました。

環境問題研究部会としてもその様な規制に対して前向きに取り組み、タイムリーな情報提供を行いたいと考えております。

4. 懸案事項・課題

- ・各国の環境に対する法令・規制動向や情報の把握と会員へのタイムリーな情報提供
- ・環境認証（ISO14001/BS7750など）に対する電子楽器業界としての取り組み

ソフトウェア委員会

1. 活動報告

○委員会開催日 96年4月11日 96年5月16日
96年6月13日 96年7月11日

●活動・実践報告

平成8年度上期は著作権委員会との合同定例委員会を4回に渡って開催。マーケティング部会を3回、マルチメディア研究部会を3回開催致しました。また、今期の活動方針を討議する為に幹事会を1回開催（5月8日）致しました。さらに、会員相互の勉強会として、定例委員会にて下記セミナーも実施いたしました。

- 4/11…「ミュージックメーカーMumaについて」講師：株式会社ヤマハミュージックメディア 田中開発室室長
6/13…「インターネットと音楽」講師：株式会社シンタックス 代表取締役 小松義光氏
7/11…「ピピンとMIDI」株式会社バンダイ・デジタルエンターテイメント 取締役 鶴之沢 伸氏

●決定事項

- ・各部会の活動計画を討議のうえ決定いたしました。
- ・今年度新役員を決定致しました。（詳細は本紙4ページ参照）
- ・「MIDI World '96」期間中のMIDIセミナーの開催

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

1. 委員会／部会

著作権委員会との合同定例委員会を計6回開催予定です。

96年度予定 9/12、10/17、11/14、12/12

97年度予定 1/23、3/13

- ・会員間の勉強会としてセミナーの開催を計6回予定しています。
- ・マーケティング部会、マルチメディア研究部会ともに計3回の開催を予定しています。

2. MIDIセミナー開催

- ・マーケティング部会としての左記セミナーを、「MIDI World '96」期間中の10月25日（金）に開催することが決定致しました。

3. 今後の委員会活動に対する抱負

- 抱負としては、当委員会の目的としている、「電子音楽ソフトウェアに係わる市場の育成及び業界の発展・活性化の推進」に向け積極的に活動していきたい、と考えております。

マーケティング部会

1. 活動報告

○部会開催日 96年4月11日 96年6月13日 96年7月1日

●活動・実践報告

平成8年度上期の当部会活動は、臨時部会を含め、計3回開催されました。内容的には、今後の活動方針、運営の具体的方法、MIDIセミナーについて、9/12の定例会セミナーについて等が検討されました。また、MIDIソフトウェアの市場啓蒙を目的に毎年実施してきた「MIDIセミナー」は、当初来年2月に予定されていましたが、来る10月に予定されている「MIDI World '96」期間中の10月25日（金）に開催することに決定されました。タイトルは「インターネットとMIDIと流通」で講師は小松先生他を予定しています。

●決定事項

- ・今期の活動方針、及び具体的方法が討議のうえ決定いたしました。
- ・今年度新役員を決定致しました。
- ・「MIDI World '96」期間中のMIDIセミナーの開催

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

1. 部会

定例部会を計3回開催予定。

96年度予定 9/12、11/14

97年度予定 1/23

- ・「MIDIセミナー」開催に向けて、臨時部会を数回開催予定。
- ・ソフトウェア商品のマーケティング、物流研究（オンライン／オフライン）及び、各種セミナーの企画実施を中心に今後の部会活動を推進して行きます。

2. MIDIセミナー開催

- ・マーケティング部会としての左記セミナーを、「MIDI World '96」期間中の10月25日（金）に開催することが決定致しました。

3. 今後の部会活動に対する抱負

- 抱負としては、会員企業の出席率を高める為により活発な意見を出す場を作る事と、より良いセミナーを行う事を具体的に考えていきたいと考えております。

マルチメディア研究部会

1. 活動報告

○部会開催日 96年4月1日 96年5月16日 96年7月11日

●活動・実践報告

平成8年度上期の当部会活動は、GML2W.Gのソフトウェア委員会としての最終まとめのミーティングを開催、提案書を作成、提出致しました。これをもってソフトウェア委員会としてのW.G.の初期目的をクリアした為に、W.G.を解散。今後は、必要に応じてW.G.を結成する事になりました（4月1日）。また、当部会の今期活動方針、運営の具体的方法等につき討議、決定がなされ、今期はまず出来ることから始めようということで、「インターネットとMIDI」、「ホームページ作成」などをテーマに会員間の勉強会を中心に活動するということで決定。下記のセミナーを実施致しました。

- ・5/16…「我が社のインターネット戦略」
ネットファイブ 代表取締役 藤村正則氏
- ・7/11…「我が社の提供するイントラネットサービス」
株式会社インフォシティ 代表取締役 岩浪剛太氏

●決定事項

- ・今期の活動方針、及び具体的方法が討議のうえ決定いたしました。（左記参照）
- ・今年度新役員を決定致しました。
- ・ソフトウェア委員会としてのGML2 W.G.の解散。

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

1. 部会

定例部会を計3回開催予定です。（下記参照）

96年度予定 10/17、12/12

97年度予定 3/13

3. 今後の部会活動に対する抱負

- 抱負としては、まず会員の皆様の興味を引く、そして有益な情報が得られる勉強会からスタートして、マルチメディア研究部会の存在をアピールし、会員の皆様の御参加を出来る限り募り、活発な部会活動を展開したいと考えております。

マルチメディア人材育成研究委員会

1. 活動報告

○委員会開催日 96年4月4日 96年4月23日 96年4月25日
96年7月24日

●活動・実践報告

平成8年度上期の当委員会活動は、委員会の構成委員の拡大、委員長、副委員長の選任、委員会の活動方針が検討されました。

●マルチメディア人材育成委員会の基本方針

1. マルチメディアソフト制作に携わる人材育成プログラム（特に音楽、音響）について、世の中の進展、実態について調査研究し、会員に提供啓蒙する。
2. MMA（財団法人マルチメディアソフト振興協会）のマルチメディア人材育成プログラム・検定試験実践への参加促進。（8年11月10日に検定試験実施予定）

2. 活動計画（8月中旬時点）

●計画

啓蒙のための「セミナー」スケジュール（8年度：5回）

対象：AMEI会員代表者及び会員幹部

内容：下記団体の「マルチメディア人材育成プログラム」の意図、概要、計画、実施状況等の現況紹介
スケジュール：

平成8年7月24日 15:00～17:00

アップルマルチメディアフォーラムのプログラム

平成8年9月19日 14:00～17:00

CGアーツ協会のプログラム

平成8年10月17日 15:00～18:00

MMAのプログラム

平成8年11月21日 15:00～18:00 未定

平成9年2月20日 15:00～18:00 未定

デジタルレコーディング研究委員会

1. 活動報告

○委員会開催日 96年7月31日
○幹事打合せ 96年5月17日 96年5月24日 96年6月26日
96年7月5日

●活動・実践報告

当委員会は、本年4月にデジタル・レコーディング研究委員会（以後DR委員会）として新たにスタート致しました。DR委員会の活動テーマ「デジタル・レコーディングに関わる各種機器間の接続インターフェイスについての問題点の改善とユーザー知識の向上」の3ヶ年計画活動案を作成し、7月31日に第一回DR研究委員会を開催し討議を行いました。

2. 活動計画

●3ヶ年計画

計画のポイント

1. デジタルオーディオ・セミナーを開催し基礎知識を養う。
2. 実用上の具体的問題点の抽出と整理を行う。
3. 問題点の原因と解決方法を策定する。
4. 具体的対策活動を検討する。
5. 以上の経緯からデジタル・レコーディング・ハンドブック（マニュアル）を編纂する。

●活動のスケジュール

「デジタルオーディオ基礎知識」についての勉強会・セミナーを本年9月頃から年間6回の実施予定で開催します。（講師：古山俊一先生他）

活動のポイント1

デジタルオーディオ・セミナーカリキュラムについて、

第1～4回のセミナー内容を決定。

・第一回セミナー開催予定／9月5日（木）

1. デジタルオーディオ概論

2. デジタルオーディオ機器のいろいろ

・第2回セミナー開催予定／10月4日

デジタルオーディオ機器の接続

・第3回セミナー開催予定／11月8日

同期について

・第4回セミナー開催予定／12月5日

コンピュータとデジタルオーディオ編集と映像

活動のポイント2

「実用上の具体的問題の抽出と整理」

1. 上記セミナー開催時毎に収集したデータを基に検討整理する。（記録を取り専門業者に依頼して文書化を行う）
2. 関係各社製品の市場で発生した事例を出し合い整理検討する。
3. 整理した内容を資料としてまとめる。

活動のポイント3

第5回セミナー開催は2月7日とし、「問題の原因と解決方法を策定する」の項目に準じた活動をしていきます。

活動のポイント4

第6回セミナー開催は3月7日とし、「具体的対策活動を検討する」の項目に準じた活動をしていきます。

1. 具体的対策について、各関連メーカーがどの様にすれば協力できるか討議する。
2. 関連メーカー関係者を集め、利害と普及のバランスの分析を行うことにより、ユーザー・オリエンテッドな思想を構築し、関連メーカーの意識づけと同意を元に協力を仰ぐ。

活動のポイント5

以上の経緯から第1回セミナー開催時より記録を取り、それらを整理することにより、平成9年度後半より、「デジタル・レコーディング・ハンドブック（マニュアル）を編纂」の活動をするための準備とします。

AMEIは家電製品PLセンターへ加入しています。

もし、家電製品(電子楽器およびその周辺機器を含む)の事故にあわれた時は、…。

家電製品PLセンターは家電製品の事故にかかわるご相談を消費者の皆様からお受けします。当センターは中立公正な機関で、当事者間の斡旋・裁定を行います。

万が一、家電製品の事故にあわれた際には、当センターへご連絡下さい。

全ての家電製品(電子楽器およびその周辺機器を含む)による事故が対象になります。(国内で販売されている輸入家電製品も含む)

- 当センターカウンセラーが担当する「相談・斡旋部門」と専門家が担当する「裁定部門」の2つの部門があります。
- 「裁定部門」は客観性・公平性を確保するために弁護士、学識経験者、消費者問題専門家、技術者等の専門家による裁定委員で構成されています。
- 相談・斡旋は無料でお受けしますが、裁定の場合は1件10,000円の手数料をいただきます。

家電製品(電子楽器およびその周辺機器を含む)の事故についてのご相談は
フリーダイヤル0120-551-110(家電製品PLセンター)

AMEI 会員名簿

(五十音順)

あ

株式会社アイ・オー・データ機器
株式会社アイデックス
赤井電機株式会社
アカソフト
アスキーネット株式会社
アップルコンピュータ株式会社
株式会社アッポサウンド

い

株式会社石橋楽器店
有限会社インターネット

え

株式会社エクシング
エディロール株式会社

お

株式会社大阪村上楽器
株式会社大阪有線放送社
株式会社音響総合研究所

か

株式会社楽販大阪
カシオ計算機株式会社
株式会社カミヤスタジオ
株式会社カメオインタラクティブ
カモンミュージック株式会社
株式会社河合楽器製作所
株式会社神田商会

き

ギガネットワークス株式会社
株式会社キュービジョン
株式会社キューブ

く

クラリオンソフト株式会社

こ

コナミ株式会社
株式会社コルグ
コロムビア音響工業株式会社

さ

株式会社サウンドクラフト
株式会社サンワード

し

株式会社シーティーエー
島村楽器株式会社
株式会社シーミュージック
株式会社ジャストシステム

株式会社ジャパンインスツルメント
シャープ株式会社
学校法人尚美学園

す

株式会社鈴木楽器製作所
株式会社ズーム

せ

セイコー電子工業株式会社
株式会社セガ・エンタープライゼス

そ

ソニー株式会社

た

株式会社第一興商
株式会社タイカン
株式会社タイトー
大日本印刷株式会社
株式会社タイムウェア
株式会社タムラ製作所

て

ティアック株式会社
TDK株式会社
株式会社電波新聞社

と

東京サウンド株式会社
東京通信機工業株式会社
凸版印刷株式会社
株式会社友ミュージック

な

南洋貿易株式会社

に

株式会社日光堂
ニフティ株式会社
日本アイビーエム株式会社
日本コロムビア株式会社
日本テレビ放送網株式会社
日本電気株式会社
日本ビクター株式会社

は

パイオニア株式会社

ひ

ビクターテクニクスミュージック株式会社
ビクターレジャーシステム株式会社

ふ

株式会社フェイス
フォステクス株式会社
不二音響株式会社
富士通株式会社
株式会社ブライトインターナショナル
株式会社プリマ楽器
プリンス通信工業株式会社

へ

ベスタクス株式会社

ま

マスターネット株式会社
松下通信工業株式会社
松下電器産業株式会社
松下電工株式会社

み

有限会社ミュージカルプラン
株式会社ミュージックネットワーク

も

株式会社モリダイラ楽器

や

株式会社山野楽器
ヤマハ株式会社
財団法人ヤマハ音楽振興会
ヤマハミュージックトレーディング株式会社
株式会社ヤマハミュージックメディア

ら

株式会社ラグナヒルズ

り

株式会社リットーミュージック
株式会社リムショット

ろ

ローランド株式会社

わ

株式会社ワキタ

(会員会社91社)

(賛助会員)
株式会社アンディーズ・ミュージック
株式会社エスシージェー・エーケー
株式会社音楽之友社
株式会社ミュージックトレード社
有限会社ミュレイディア
株式会社ヤスタコーボレーション
株式会社ラプラス

AMEI NEWS Vol. 2 / 1996. 9. 25

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行： 社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒102 東京都千代田区飯田橋4-4-7 オービットビル4F

TEL.03-5226-8550 FAX.03-5226-8549

発行人： 中田 健

編集人： 福田 誠 (広報委員会)

編集協力： GIG 28 INC.

「お知らせ」

AMEIのホームページを開設します。URLは <http://www.music.co.jp/amei> です。